

- 先進医療のご紹介
- ハイブリッド手術室が完成しました
- びわ湖メディカルネットに参加
- クオリティインディケーターのご紹介
- シリーズ「医療用語解説」第10回
- チーム医療「褥瘡対策チーム」

先進医療のご紹介

～特発性ネフローゼ症候群に対する 「リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸 モフェチル経口投与による寛解維持療法」～

小児科

平成27年7月、この方法を用いた小児難治性ネフローゼ症候群の治療が、当院でも先進医療として承認されました。

小児難治性ネフローゼ症候群とは

ネフローゼ症候群とは、血液をろ過する腎臓の糸球体内の異常で、蛋白が血液から尿に漏れ出る状態をいいます。その結果、血液中の蛋白は不足し、全身性の浮腫（むくみ）が起こります。

小児特発性ネフローゼ症候群の原因は解明されていません。多くは経口副腎皮質ステロイド薬による治療で寛解*に至りますが、約20-30%が従来の免疫抑制薬では再発を繰り返す難治性ネフローゼ症候群に移行すると考えられています。

これらの患者さんにおいては、現行の治療法ではステロイド薬の副作用（成長障害、骨粗鬆症など）が避けられず、長期間の寛解とステロイド薬からの離脱を目的とした新しい治療が望まれていました。

近年、小児難治性ネフローゼ症候群に対して有効性が明らかにされたリツキシマブ（末梢血B細胞を除去する薬）治療により、ステロイド薬や免疫抑制薬の減量や中止が可能となりました。しかし、リツキシマブにより枯渇した末梢血B細胞が回復するとともに再発をきたす傾向があるため、リツキシマブ治療後の再発防止が新たな治療の要点となっています。

この先進医療で行う治療法とは

ミコフェノール酸モフェチル（以下：MMF）は、わが国ではネフローゼ症候群の治療薬としては承認されていませんが、海外では、本疾患に対する免疫抑制薬の1つとして推奨されています。MMFには、末梢血B細胞の増殖を抑制する働きがあり、リツキシマブ治療後のMMF内服により長期寛解維持効果とステロイド薬の減量効果が期待されています。

この先進医療では、小児難治性ネフローゼ症候群の患者さんをリツキシマブ治療後にMMFを内服する群と対照薬を内服する群の2群に分け、それぞれのグループの寛解を維持する効果（再発を抑制する効果）と安全性について評価します。

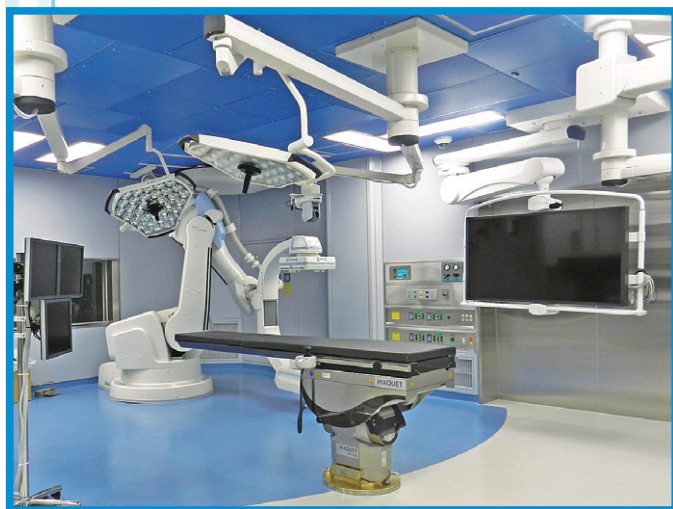
*ネフローゼ症候群の寛解：尿蛋白の陰性が持続した状態。小児特発性ネフローゼ症候群では約80%が再発するといわれています。



ハイブリッド手術室が完成しました

手術部

平成27年5月に『ハイブリッド手術室』が完成しました。ハイブリッド車はガソリンと電気の両方を使って走ることのできる車ですが、ハイブリッド手術室は、手術室でありながら、カテーテル室で使用されるような高性能の放射線透視装置を備えています。つまり、手術とカテーテル治療の良いところを組み合わせることが可能です。高画質の放射線画像を大画面で見ながら手術を施行することができますので、従来の手術室で用いていた放射線透視装置では対応困難であった症例にも対応できるようになっています。



このような新技術により、安全かつ低侵襲での手術が可能となり、また、最新の医療技術にも対応可能となりました。



びわ湖メディカルネットに参加しています

医療情報部

びわ湖メディカルネットは、同意をいただいた患者さんの医療情報を、県内の医療機関で共有することにより、より良い医療を提供するための仕組みです。こうした取り組みには行政をはじめ滋賀で医療にかかわるあらゆる職種の方々の協力と参加が必要ですが、幸いびわ湖メディカルネットではオール滋賀体制を取ることができました。

当院は医療情報の情報提供病院として参加するとともに、医療情報ネットワークの技術面・運営面での支援や脳卒中ネットをはじめとする情報活用と情報提供などを積極的に行っています。皆様のご理解と積極的なご参加をお願いいたします。



地域全体で患者さんを診る、安全・安心の医療
びわ湖メディカルネット

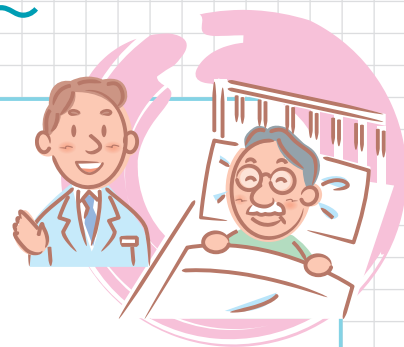
びわ湖メディカルネットHP

<http://www.biwako-medical.net>

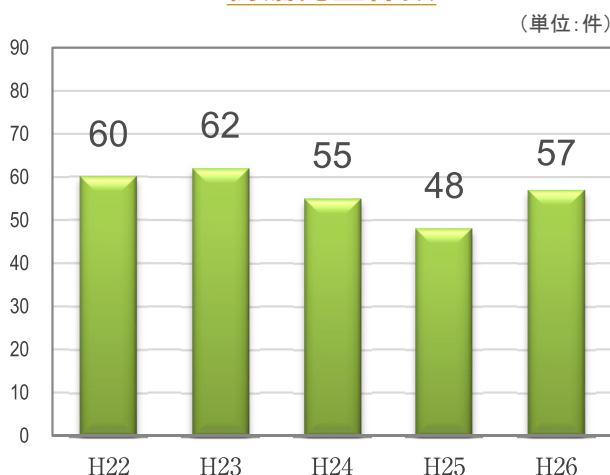
クオリティインディケーター (QI) のご紹介 ～褥瘡発生件数～

病院管理課経営企画室

当院では、医療の質と医療の活動度に関する実績を取りまとめ、「QI：医療の質についての指標」として、約60項目をホームページで公表しています。その中から、今回は「褥瘡発生件数」についてご紹介します。



褥瘡発生件数



褥瘡とは、寝たきりなどによる圧迫で皮膚の血流が悪くなり、その部分が損傷を受けてしまうことで、一般的に「床ずれ」ともいわれます。

患者さんの日常生活動作を予測したリスク評価の実施、適切な体圧分散寝具の選択・設定等を行い、褥瘡発生件数減少につなげていきます。

シリーズ「医療用語解説」第10回 ～オーダーメイド医療～

臨床研究開発センター

現在の医療では、診断された病気が同じであれば、誰に対してもほぼ同じ治療が行われます。しかし、個々人の体質は異なり、同じ治療を受けたとしても効果は同じではありません。なかには、薬の効果が現れるどころか、副作用に悩まされる人もいます。このような差が出る要因として、薬の代謝や輸送に関する遺伝子の違いが考えられています。そこで、個々の遺伝子情報を調べて体質に合った最適な医療として「オーダーメイド医療（個別化医療）」が、理想の医療として注目され、その確立を目指した研究が世界中で行われています。



わが国でも国家プロジェクトとして「オーダーメイド医療の実現プログラム」が実施されています。これまでに20万人以上の遺伝子と病気のデータが蓄積されました。「オーダーメイド医療」の実現には、更なる情報の収集ならびに研究が必要です。当院でも、患者さんに本プロジェクトへのご協力をお願いしています。対象となる患者さんへは主治医からお声がけさせていただきますのでご協力いただくと幸いです。



チーム医療『褥瘡対策チーム』

褥瘡対策チーム 褥瘡専従看護師 河村 光子

当院は、平成26年1月に（公財）日本医療機能評価機構による審査を受け、その結果、機構の定める基準を達成していると認められました。特に、多職種による専門的なチーム医療に対して高い評価を得ました。

今号では、当院のチーム医療の中から褥瘡対策チームとその活動についてご紹介します。



● 褥瘡対策チームとは

褥瘡対策チームは、患者さんのQOL*を考慮した質の高い褥瘡予防・治療ケアの提供を目指しています。専門性のある多彩な職種（医師・看護師・栄養士・薬剤師等）が協働し、褥瘡になりやすい患者さんの予防、褥瘡がある患者さんの治療・悪化予防に関わることで、「褥瘡発生ゼロ」を目標に活動しています。

*QOL：Quality of Life（クオリティ・オブ・ライフ）の略で「生活の質」などと訳されます。

● 活動について

褥瘡予防対策として、主に**3つの活動**を行っています。

1つ目は褥瘡対策チームによる回診です。褥瘡になりやすい患者さんの予防ケアの評価と褥瘡がある患者さんの発生要因を検討し対策を考え、多方面からアプローチを行います。

2つ目は褥瘡リンクナースや病棟スタッフへの教育です。各病棟のスタッフが入院患者さん全員について、定期的に褥瘡のなりやすさの評価を行い、患者さんのリスクに応じた褥瘡予防計画を立案します。また、各病棟の褥瘡リンクナース*への教育を行い、病院全体の褥瘡対策ケアが効率的に行えるようにしています。

3つ目は褥瘡予防できる環境の整備です。当院では全床に褥瘡予防のマットレスを取り入れています。

*リンクナース：病院内の専門チームと現場の病棟をつなぐ役割をする看護師のことで、褥瘡リンクナースは褥瘡発生の予防と早期治療に取り組んでいます。

● 活動の成果

これら褥瘡対策に関する活動や予防環境の成果として、平成20年度から褥瘡発生率は年々低下し、平成25年度以降、**42国立大学病院の中でベスト5**に入っています。

これは、褥瘡対策チームを監査する褥瘡対策委員会、現場のスタッフを始め、病院全体で褥瘡対策に取り組んでいる努力の賜であると思います。

今後も目標の「褥瘡発生ゼロ」を達成できるよう努めてまいります。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第48号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL：077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



●理念を実現するための 基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・安心・満足を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します